

移住、観光 広域連携で

八戸 あおもりツーリズム創発塾



移住促進や観光客増に向けたアイデアを話し合う参加者たち

観光客や移住者を増やすための広域連携策について考えようと、八戸市の八戸学院地域連携研究センターは9日、「あおもりツーリズム創発塾」を同市の八戸グランドホテルで開いた。県南地方などの約20人が先進地の事例を学びながら、魅力ある地域づくりを目指し意見交換した。
(新村菜穂)

先進例学びアイデア発表

創発塾は県の委託を受け開催。県外の情報提供者3人が先進事例を紹介するト

ークセッションと、参加者によるアイデアの話し合いの2部構成で行った。八戸

学院大学の玉樹真一郎学長補佐がモデレーターを務めた。

観光に関するベンチャービジネスなどに取り組むパソナの加藤遼・ソーシャルインベション部副部長は、徳島市で阿波踊り期間中実施した「イベント民泊」で、国内外の観光客と住民の交流が進んだことを紹介した。

博報堂で全国各地の地域ブランドづくりに関わった木下富美子・東京都議は、特産品や観光地のブランド化に加えその地域の暮らしや人のブランド化が重要として「住民が地域に対してどれだけ愛着を持ち、それを確認しているのかが大切」と述べた。

セッションを踏まえ、参加者は4班に分かれ情報提供者と共に意見交換。最後に▽地域の公民館を民泊に

利用し、高齢者の仕事づくりにつなげる▽準備期間から祭りに参加してもらい、配偶者を見つめるきっかけをつくるなどのアイデアを発表した。

伝承千年の宿佐勘(仙台

市)の佐々木圭・社長室長は議論を振り返り「青森にはみんなと一緒にできるコンテンツがたくさんある。皆さんにとっては普通だと思っが、生かせば青森はもっと良くなる」と指摘した。